

身近なシラカバ有効活用

【東川】シラカバへの理解を促すワークショップが26日、町内のキトウシ森林公園内の大雪山自然学校で開かれた。参加者はシラカバの樹皮でコースターを作ったり、シラカバについて学べる紙芝居を鑑賞したりして、シラカバの特徴などを楽しく学んだ。
(相武大輝)

東川でワークショップ



樹皮を編み込み、コースター作りに挑戦する参加者

小中生らコースター作り

シラカバの有効利用を目指すし、旭川市や近郊の家具職人と木材研究者でつくる一般社団法人白樺プロジェクト(旭川)の主催。町内から小中学生とその保護者ら計7人が参加した。

コースター作りで使用したのはシラカバの樹皮16本。参加者は樹皮にオリブオイルを塗った後、用意されたコースターの図面に合わせて、適当な長さに切った樹皮を編み込んでいった。参加者は細かな作業に悪戦苦闘しながら、約1時間半かけて仕上げた。参加した東川小5年の荒井咲希さん(11)は「樹皮を編み込む作業が難しかったけど楽しかった」と話した。

紙芝居では、シラカバは樹皮や樹液、葉などと余すことなく使える「健康の木」となると説明した。

来年度以降もワークショップを開催予定で、同プロジェクトの鳥羽山聡代表(53)は「身近にあるシラカバの魅力を感じる機会になれば」と期待した。